

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 182-8567  
 住 所 東京都調布市仙川町二丁目19番地5  
 氏 名 小田急バス株式会社 印  
 代表取締役 下岡 祥彦  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	小田急バス株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市多摩区登戸3816		
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	43	道路旅客運送業
主たる事業 の内容	一般乗合旅客自動車運送業		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		kl
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数		103 台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	運輸部 整備担当
		所在地	東京都調布市仙川町2-19-5
		電話番号	03-5313-8222
		FAX番号	03-5314-7211
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～平成24年度 (報告年度24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	環境の取り組みは、当社ホームページにて公表しています。 <a href="http://www.odakyubus.co.jp/csr/environment.html">http://www.odakyubus.co.jp/csr/environment.html</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第3号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,559 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,559	(実) 4,915 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,915	(実) 4,831 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,831	(実) 4,800 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,800	(実) 4,513 t-CO <sub>2</sub> (調)
削減率		(実) -7.8 % (調) -7.8	(実) -6.0 % (調) -6.0	(実) -5.3 % (調) -5.3	(実) 1.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	走行キロ		単位	t-CO <sub>2</sub> /千km	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の	1.081	1.124	1.119	1.108	1.050
削減率		-4.0 %	-3.5 %	-2.5 %	2.9 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	22年7月の猛暑による、車両燃費の急激な落ち込みにより、温室効果ガスの排出量が増加した。
第2年度	夏は猛暑ではあったが、エコドライブに取り組み、前年に比べて温室効果ガスの排出量を削減することができた。
第3年度	第1年度～3年度を通して猛暑が続き、エアコンの使用頻度も増加し基準年度に比べて燃費(原単位に比例)は悪化した。第2年度からエコドライブ講習会を受講し、実践したため燃費は向上した。第3年度も効果が表れ向上した。 保有台数は基準年度より第1年度は減少したが、路線バスの運用が増えたので、走行キロが増加し、排出量が増加した。しかし、第2年度、3年度と運行路線の見直しを実施し、走行キロが減少し排出量は減少した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

<p>第1年度は、路線バスの運用台数の増加、および新規路線の運行開始等があり、基準年度より走行キロが増加し、排出量も増加した。しかし、第2年度、3年度と運行路線の見直し等があり、走行キロが減少した。</p> <p>平成24年度は、低燃費車両20台導入した。 ポスト新長期規制車両は、排ガス浄化装置を使用する際、燃料を噴射するため、燃料使用量が増加し、燃費が落ち込むため、ポスト新長期規制車の所有率が全車両の40%を上回る本年度以降は、燃費は悪化する傾向にある。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該 当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	
自動車等 (第 3 号該 当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握</li> <li>・エコドライブの実践</li> <li>・低燃費車両の導入</li> </ul>
	第 1 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握</li> <li>社内システムにより走行キロ・使用燃料を把握し掲示をした。</li> <li>・アイドリングストップによるエコドライブの実践</li> <li>エコドライブ講習を行いアイドリングストップの実践・立会指導を行った。</li> <li>・低燃費車両の導入</li> <li>低燃費車両を 1 台導入した。</li> </ul>
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握</li> <li>・アイドリングストップによるエコドライブの実践</li> <li>・燃費表彰制度導入</li> <li>年間の燃費上位者を表彰する制度を制定した。</li> <li>・省燃費講習会受講</li> <li>基本的なエコドライブについて外部教育を実施</li> </ul>
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握</li> <li>・アイドリングストップによるエコドライブの実践</li> <li>・低燃費車両の導入</li> <li>・燃費表彰制度導入</li> <li>・省燃費講習会受講</li> <li>・室内灯及び、車外灯の LED 化により、エンジンの負荷を軽減し燃費の向上に努めた。</li> <li>・冷房の定期オーバーホールの計画的実施により、冷房効率を上昇を図った。</li> </ul> <p>第一期計画期間では、外部講習による省燃費講習会を受講し、アイドリングストップ等によるエコドライブの実践をすることで、燃費向上に寄与することができた。</p>



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"><li>・バリューアップ小田急</li><li>・グリーン経営認証取得</li><li>・グリーン購入の推進</li><li>・廃棄物の減量化・分別化の推進を図る</li></ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・各種イベント輸送を行い、お客様が公共交通機関を使用して、マイカーでの来場を削減することによる、CO2削減に取り組んだ</li><li>・事務用品、OA機器に対するグリーン購入の実施</li><li>・廃棄物の減量化・分別化を実施</li></ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・事務用品、OA機器に対するグリーン購入の実施</li><li>・廃棄物の減量化・分別化を実施</li></ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・事務用品、OA機器に対するグリーン購入の実施</li><li>・廃棄物の減量化・分別化を実施</li></ul> 第一期計画期間では、事務用品、OA機器に対するグリーン購入の実施、及び廃棄物の減量化・分別化の実施、また、再生タイヤ使用によりCO2の削減を計った。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

イ 第3号該当者等

(実)	4,800	t-CO <sub>2</sub>
(調)	4,800	

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--

## 7 自動車の使用状況一覧（第3号該当者等）

## (1) 車両の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
		台数	台数	台数	台数
総 数		106 台	103 台	101 台	103 台
内 訳	普通貨物自動車	0 台	0 台	0 台	0 台
	小型貨物自動車	0 台	0 台	0 台	0 台
	大型バス	103 台	100 台	98 台	100 台
	マイクロバス	0 台	0 台	0 台	0 台
	乗用自動車	3 台	3 台	3 台	3 台
	特種自動車	0 台	0 台	0 台	0 台

## (2) 燃料の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	最新年度
		台数	台数	台数	台数	比率
総 数		106 台	103 台	101 台	103 台	100.0 %
内 訳	電気自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	天然ガス自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	メタノール自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	ハイブリッド自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	プラグインハイブリッド自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	燃料電池自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	水素自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	ガソリン自動車 (ハイブリッド*除く)	3 台	3 台	3 台	3 台	2.9 %
	ディーゼル自動車 (ハイブリッド*除く)	103 台	100 台	98 台	100 台	97.1 %
	LPGガス自動車	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
	その他	0 台	0 台	0 台	0 台	- %
うち低燃費車** の台数	23 台	24 台	24 台	28 台	27.2 %	

※ 低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準（トップランナー基準）を早期達成している自動車をいう。